






## Cisco IP Phone 7940/7960 電話ガイド

ライセンスおよび保証



## コールの表示とダイヤル

目的	必要な操作または状態の説明
最後にダイヤルした電話番号をリダイヤルする	[リダイヤル]を押します。
履歴を表示する	 > [フザイリレキ]、[チャクシンリレキ]、または [ハッシンリレキ]を選択します。
履歴からダイヤルする	履歴のリストをスクロールして番号を選択し、必要であれば電話番号を編集して、オフフックにします。
履歴の電話番号を編集する	[ヘンシュウ]を押してから、<<または>>で、数字の消去またはカーソルの位置変更を行います。
社内ディレクトリからダイヤルする	 > [シャナイディレクトリ]を選択します。最初の数文字を入力して[ケンサク]を押します。リストをスクロールして選択し、オフフックにします。
スピーカフォンを使用する	[ハッシン]を押し、電話番号を入力します。ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に  を押します。
別のコールがアクティブなときにコールを発信する	[ハッシン]を押します。元のコールは自動的に保留状態になります。



Cisco, Cisco IOS, Cisco Systems, および Cisco Systems のロゴは、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他のブランド、名称、または商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0501R)

Copyright © 2005 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

OL-4637-03-J



## Cisco IP Phone 7940/7960 電話ガイド

ソフトキーの機能  
ボタンの機能  
コールの転送  
コール転送の使用  
会議コールの使用  
コールの表示とダイヤル

## ソフトキーの機能

タンシュク	短縮ダイヤルのインデックス番号を使用してダイヤルする
オウトウ	コールに応答する
ワリコミ	共有回線のコールに参加する
オリカエシ	話し中または呼び出し中の内線が対応可能になったときに通知を受信する
キャンセル	変更内容を適用せずに、操作をキャンセルまたは画面を終了する
Cワリコミ	共有回線のコールに参加し、会議コールを開催する
フザイ	コール転送を設定またはキャンセルする
クリア	レコードまたは設定を削除する
サンカシャ	会議の参加者を表示する
カイギ	会議コールを作成する
デフォルト	設定（音量も含む）を元の製造時の値に復元する
サクジヨ	編集機能を使用しているときに、カーソルの右側にある文字を削除する
ダイヤル	入力した電話番号をダイヤルする
Dテンソウ	2つのコールを相互に転送する
ヘンシュウ	履歴の電話番号を編集する
シュウリョウ	現在のコールを切断する
シュウリョウ	前の画面に戻る
Gピック	グループ外の内線のコールに応答する
サンカ	複数のコールを1つの回線に加え、会議コールを作成する
ミートミー	Meet-Me 会議コールを開催する
ツギへ	その他のソフトキーを表示する

ハッシン	新しいコールを発信する
パーク	コールパークを使用してコールを保存する
ピック	グループ内で別の内線のコールに応答する
ヒツウチ	共有回線でコールの参照やコールへの割り込みを他者に許可または禁止する
ヒンシツ	問題のあるコールに関する情報をシステム管理者に送信する
リダイヤル	最後にダイヤルした電話番号にリダイヤルする
サクジョ	会議の参加者を削除する
フクゲン	設定（音量も含む）を前回保存した値に復元する
フッキ	保留されたコールを復帰する
ドロップ	会議コールに最後に追加された参加者を削除する
ホゾン	選択した設定を保存する
ケンサク	ディレクトリのリストを検索する
センタク	画面上で項目を選択する
テンソウ	コールを転送する
コウシン	内容を更新し、最新情報を取得する
<<	入力した文字を削除する
>>	入力した文字の上を移動する

## ボタンの機能

	メッセージ
	サービス
 または 	ヘルプ
	ディレクトリ
	設定
	スピーカ
	ミュート
	ヘッドセット

## コールの転送

目的	必要な操作または状態の説明
コールを転送する	接続コール中に【テンソウ】を押し、転送先の電話番号を入力します。コールの呼出音が聞こえたら、切断するか、または【テンソウ】を押してから切断します。
2 つの現在のコールを相互に転送する(直接転送)	その回線における対象の各コールまでスクロールし、【センタク】を押します。選択したコールのいずれかで、【ツギへ】>【Dテンソウ】を押します。発信者との通信を継続するには、代わりに【サンカ】を使用して会議を作成します。

## コール転送の使用方法

目的	必要な操作または状態の説明
プライマリ回線のコール転送を設定する	【フザイ】を押し、転送先の電話番号を入力します。
コンピュータで任意の回線のコール転送を設定またはキャンセルする	ユーザオプション Web ページにログインし、メインメニューから【すべてのコールを別の番号に転送】を選択します。
転送をキャンセルする	【フザイ】を押します。

## 会議コールの使用方法

目的	必要な操作または状態の説明
参加者にコールを発信して標準の会議コールを開催する	接続コール中に、別の発信者をコールに追加するには、【ツギへ】>【カイギ】を押します。参加者の電話番号をダイヤルします。接続されたら、【カイギ】をもう一度押します。この操作を繰り返して、参加者を1人ずつ追加します。
現在の発信者を標準の会議の参加者として追加する	その回線における対象の各コールまでスクロールし、【センタク】を押します。選択したコールで、【ツギへ】>【サンカ】を押します。
参加者のリストを表示する	アクティブな会議を選択し、【サンカシャ】を押します。アスタリスク(*)の付いた人物は会議の開催者です。
会議から参加者を削除する	会議の開催者である場合、【ドロップ】を押すか、または会議の参加者のリストをスクロールして名前を選択し、【サクジョ】を押すことができます。



# Contents

---

ソフトキーの機能	1
コールの表示とダイヤル	1
ボタンの機能	2
コールの転送	2
コール転送の使用方法	2
会議コールの使用方法	2
<b>はじめに</b>	<b>1</b>
このガイドの使用方法	1
安全および使用における情報	2
電話スクリーンのクリーニング	5
詳細情報	5
電話機のカスタマイズに関する詳細情報の Web での参照	5
<b>電話機の接続</b>	<b>6</b>
<b>電話機の概要</b>	<b>9</b>
ボタンとハードウェア	10
電話スクリーンの機能	13
操作方法と機能の可用性について	14
コール処理とナビゲーションのヒント	14
オンフックとオフフック	14
回線とコールの違いについて	14
コールのアイコンについて	15
コールの選択	16

コールの表示とコール間の切り替え	16
電話スクリーン項目の選択	17
機能メニューの使用方法	18
テキストの入力と編集	18
電話機に関するヘルプの表示	19
ボタン アイコンについて	19
<b>基本的なコール処理</b>	<b>20</b>
コールの発信	20
コールへの応答	25
コールの終了	26
コールの保留と復帰	27
ミュートの使用	27
接続コールの転送	28
別の電話番号へのコール転送	29
会議コールの使用方法	30
サポートされている会議コールのタイプ	30
標準の会議の開催と参加	31
Meet-Me 会議コールの開催または参加	33
<b>応用的なコール処理</b>	<b>34</b>
パークされているコールの保存と取得	34
自分の電話機で他の電話機の着信に応答する	35
共有回線の使用	36
共有回線について	36
共有回線のコールへの参加	37
他者による共有回線のコールの表示および割り込みの防止	38
不審なコールのトレース	39
安全なコールの送受信	40

重要なコールの優先順位付け	41
ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンの使用方法	43
ヘッドセットの購入	44
ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答	44
電話機の設定のカスタマイズ	45
音量の調節	45
呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ	46
電話スクリーンのカスタマイズ	47
短縮ダイヤル機能の設定	47
ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用	49
ボイス メッセージへのアクセス	49
履歴およびディレクトリの使用	50
ユーザ オプション Web ページへのアクセス	52
ユーザ オプション Web ページへのログイン	53
電話機サービスへの登録	54
その他の設定オプションについて	55
電話機のトラブルシューティング	57
Quality Reporting ツールの使用方法	58
シスコ製品（ハードウェア）に関する 1 年間の限定保証規定	59
索引	





# Figures

---

図 1	Cisco IP Phone 7960	10
図 2	Cisco IP Phone 7940	11







# はじめに

## このガイドの使用方法

このガイドでは、電話機で使用可能な機能の概要について説明しています。電話機の機能について確実に理解するには、このガイドをよく読んでください。次の表に、よく使用される項目を示します。

目的	操作
電話機について調べる	ヘルプが必要な場合は、 <b>1</b> または <b>?</b> を押してください。
安全情報を参照する	P.2の「安全および使用における情報」を参照してください。
電話機を接続する	P.6の「電話機の接続」を参照してください。
設置後に電話機を使用する	P.9の「電話機の概要」を参照してください。
ディスプレイについて調べる	P.13の「電話スクリーンの機能」を参照してください。
コールを選択する、またはコールを切り替える	P.14の「コール処理とナビゲーションのヒント」を参照してください。
コールを発信する	P.20の「コールの発信」を参照してください。
コールを保留にする	P.27の「コールの保留と復帰」を参照してください。
ミュートにする	P.27の「ミュートの使用」を参照してください。
コールを転送する	P.28の「接続コールの転送」を参照してください。
会議コールを発信する	P.30の「会議コールの使用」を参照してください。
電話番号を共有する	P.36の「共有回線の使用」を参照してください。
電話機をスピーカフォンとして使用する、または他のオーディオデバイスと切り替える	P.43の「ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンの使用方法」を参照してください。
音量レベルや呼出音を変更する	P.45の「電話機の設定のカスタマイズ」を参照してください。
短縮ダイヤルを設定する	P.47の「短縮ダイヤル機能の設定」を参照してください。
不在履歴を表示する	P.49の「ボイスメッセージ、履歴、およびディレクトリの使用」を参照してください。

# 安全および使用における情報

## 電話機の設置および使用

次の安全上の注意事項をお読みになってから、Cisco IP Phone の設置と使用を始めてください。



警告

---

### 安全上の重要な注意事項

危険であることを意味します。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

これらの注意事項を保管しておいてください。

---



警告

---

必ず、取り付け手順を読んでから、システムを電源に接続してください。

---



警告

---

この製品を廃棄処分する際には、日本国の法律および地方自治体の条例または規則に従ってください。

---



警告

---

雷の発生中は、システムでの作業、またはケーブルの接続や取り外しを行わないでください。

---



警告

---

感電事故を防ぐために、安全超低電圧 (SELV) 回路を電話網電圧 (TNV) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路があり、WAN ポートには TNV 回路があります。一部の LAN ポートと WAN ポートはいずれも、RJ-45 コネクタを使用しています。ケーブルを接続する場合には、注意してください。

---



注意

インライン電源の回路では、通信ケーブルを介して電流が供給されます。シスコが提供するケーブル、または 24 AWG 以上の通信ケーブルを使用してください。



警告

電源装置は屋内に設置する必要があります。

### 外付け電源装置の使用

次の警告は、Cisco IP Phone を外付け電源装置と使用する場合に適用されます。



警告

この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が敷設されていることが前提になっています。各相導体（すべての通電導体）に 120 VAC、15A（日本および米国）または 240 VAC、10A（前記以外の国）以下のヒューズ、または回路ブレーカーが使用されていることを確認してください。



警告

この装置は、TN 電源システムを使用して動作するように設計されています。



警告

プラグとソケットは常に手を伸ばして利用できる状態にしておく必要があります。これは、プラグとソケットが主要な切断装置であるためです。



注意

この製品では、シスコが指定する電源装置だけを使用してください。

## Cisco IP Phone での外部デバイスの使用

次の情報は、Cisco IP Phone で外部デバイスを使用する場合に適用されます。

シスコでは、不要な Radio Frequency (RF; 無線周波数) および Audio Frequency (AF; 可聴周波数) がシールドされた高品質の外部デバイス (スピーカ、マイクロフォン、およびヘッドセット) の使用を推奨しています。

これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。その場合は、次のいずれかの方法で対処してください。

- RF または AF の信号源から外部デバイスを離す。
- RF または AF の信号源から外部デバイスのケーブルの経路を離す。
- 外部デバイス用にシールドされたケーブルを使用するか、シールドおよびコネクタが高品質のケーブルを使用する。
- 外部デバイスのケーブルを短くする。
- 外部デバイスのケーブルに、フェライトまたは同様のデバイスを適用する。

シスコでは、外部デバイス、ケーブル、コネクタの品質については制御できないため、システムパフォーマンスを保証することはできません。良品質のケーブルおよびコネクタを使用して適切なデバイスを接続すると、十分なシステムパフォーマンスを得られます。



注意

---

欧州連合諸国では、EMC Directive [89/336/EC] に完全に準拠した外部スピーカ、マイクロフォン、ヘッドセットだけを使用してください。

---

## 電話スクリーンのクリーニング

電話スクリーンは、柔らかく乾いた布で軽く拭きます。電話機に液体や粉がかからないようにしてください。柔らかく乾いた布以外で拭くと、電話機の部品が汚れたり、故障したりする可能性があります。

## 詳細情報

WWW 上の次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/>

シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスできます。

[http://www.cisco.com/public/countries\\_languages.shtml](http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml)

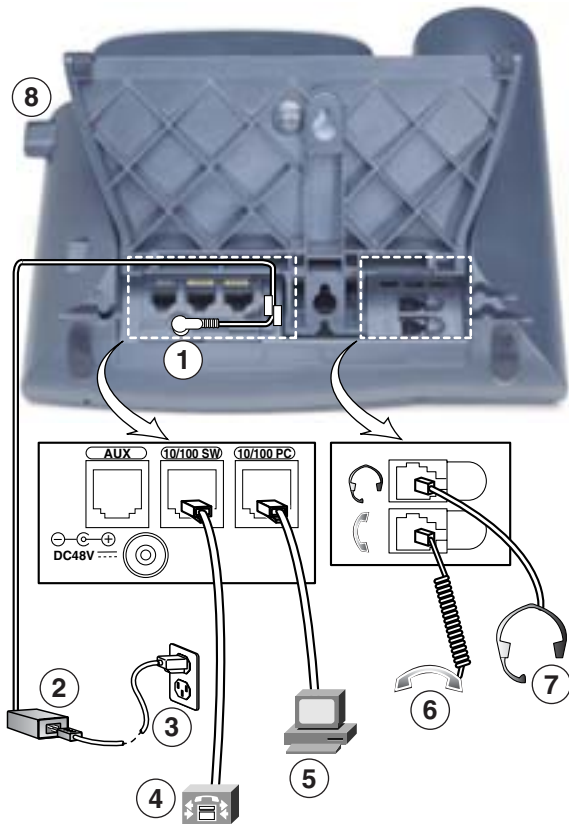
## 電話機のカスタマイズに関する詳細情報の Web での参照

Cisco IP Phone は、社内のコンピュータなど、他のネットワーク デバイスと情報を共有することのできるネットワーク デバイスです。Cisco CallManager のユーザ オプション Web ページを使用すると、コンピュータで電話機サービスの設定とカスタマイズ、および電話機の機能や設定の制御を行うことができます。このガイドでは、これらの機能の概要を簡単に紹介しています。詳細な説明については、次の URL で『*Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ*』を参照してください。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c\\_ipphon/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm)

# 電話機の接続

通常は、システム管理者が新しい Cisco IP Phone を企業 IP テレフォニー ネットワークに接続します。それ以外の場合は、次の図および表を参照して、電話機を接続してください。



113656

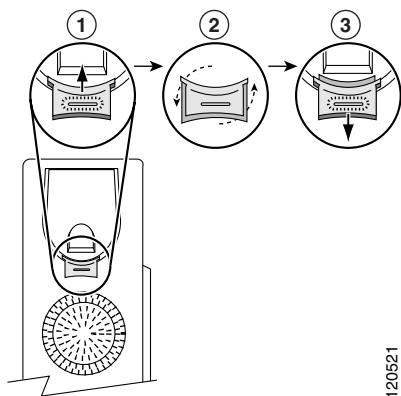
1	インライン電源が供給されない電話機用の DC アダプタポート (DC48V)	5	電話機をコンピュータに接続するためのアクセスポート (10/100 PC)
2	AC-DC 電源装置	6	ハンドセットポート
3	AC 電源コード	7	ヘッドセットポート
4	ネットワークへの接続用のネットワークポート (10/100 SW)	8	フットスタンドボタン

## フットスタンドの調節

机上の電話機本体の角度を変更するには、フットスタンド ボタンを押しながらフットスタンドを調節します。

## ハンドセット受け台の調節

電話機を接続する際、ハンドセットが滑り落ちないように、受け台を調整することができます。次の表に手順を示します。



1	ハンドセットを外し、ハンドセットの受け台から四角いプラスチックのタブを引き出します。
2	タブを 180 度回します。
3	タブをハンドセットの受け台に再び差し込みます。回したタブの上部から突起が出ている状態になります。ハンドセットを受け台に戻します。

## TAPS を使用した登録

電話機をネットワークに接続した後、システム管理者が Tool for Auto-Registered Phones Support ( TAPS ) を使用して電話機の自動登録を指示する場合があります。TAPS は、新しい電話機にも、既存の電話機を置き換える場合にも使用できます。

TAPS に登録するには、ハンドセットを取り上げて、システム管理者から提供された TAPS 内線番号を入力し、ボイス プロンプトに従います。地域コードを含む、完全な内線番号を入力するように指示される場合があります。電話機に確認メッセージが表示されたら、ハンドセットを置きます。電話機が再起動します。



## ヘッドセットについて

ヘッドセットを使用するには、ヘッドセットを電話機の背面にあるヘッドセットポートに差し込みます。

シスコシステムズでは、Cisco IP Phone で使用するサードパーティ製のヘッドセットについて社内でテストを実施していますが、ヘッドセットまたはハンドセットのベンダーによる製品の動作の保証やサポートは行っていません。Cisco IP Phone の展開場所では、環境やハードウェアによるそれぞれ固有の不整合が発生する場合がありますので、すべての環境に共通して適用できる「最良の」解決策を1つだけ見出すことは不可能です。ネットワークにヘッドセットを多数展開する前に、お客様の環境での使用に最適かどうか、それらのヘッドセットについてテストすることをお勧めします。

ヘッドセットの種類によっては、その機械上または電子上の特性が原因で、Cisco IP Phone ユーザとリモートで会話中の通話相手に、通話相手自身の声の反響が聞こえる場合があります。

シスコシステムズでは、不要な Radio Frequency ( RF; 無線周波数 ) および Audio Frequency ( AF; 可聴周波数 ) が遮蔽された高品質のヘッドセットなどの外部デバイスの使用を推奨しています。これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。詳細については、P.4 の「Cisco IP Phone での外部デバイスの使用」を参照してください。

一部のヘッドセットが Cisco IP Phone での使用に適さないとされる主な理由は、ハム雑音が入る可能性があるということです。このハム雑音は、リモートの通話相手だけに聞こえる場合も、リモートの通話相手と Cisco IP Phone ユーザの両方に聞こえる場合もあります。ハム雑音やブザーのような雑音は、電灯、近辺にある電気モーター、大型の PC モニタなど、外部ソースに原因があることがあります。場合によっては、ユーザに聞こえるハム雑音は、ローカル電源キューブ ( CP-PWR-CUBE-2 ) を使用することにより、軽減または除去が可能です。詳細については、P.3 の「外付け電源装置の使用」を参照してください。

## ユーザの主観

物理的、機械的、および技術的なパフォーマンスより先に、まずヘッドセットによって提供される音が、ユーザとリモートの通話相手にとって良質のものである必要があります。音の品質の判断は主観的なものであるため、シスコでは、特定のヘッドセットやハンドセットのパフォーマンスを保証することはできません。ただし、次に示すサイトに記載されているヘッドセットやハンドセットは、Cisco IP Phone で使用した場合のパフォーマンスが優れていることが報告されています。

しかし、使用する環境でこれらの装置をテストし、適切なパフォーマンスが得られるかどうかを判断するのは、最終的にお客様ご自身の責任になります。

ヘッドセットについては、次の URL を参照してください。

<http://vxicorp.com/cisco>

<http://plantronics.com>

# 電話機の概要

---

Cisco IP Phone 7940 および 7960 は、コンピュータで使用するデータ ネットワークで音声通信を行うためのすべての機能が搭載された電話機です。この電話機を使用してコールの発信および受信、保留、短縮ダイヤル番号、転送、会議コールの開設などの機能を使用できます。

基本的なコール処理のほかに、この電話機では、コール処理機能を拡張およびカスタマイズできる特殊（詳細）なテレフォニー機能をサポートしています。

Cisco IP Phone には、次の機能が備わっています。

- ネットワーク データおよびネットワーク サービスへのアクセス：電話機から特殊な Web ベースのサービスにアクセスできます。
- ユーザ オプション Web ページからのオンライン制御：コンピュータで Web ブラウザを使用して、電話機の機能をカスタマイズできます。
- オンライン ヘルプ システム：機能、ボタン、ソフトキー、およびメニュー項目に関する情報を電話機から直接入手できます。

## ボタンとハードウェア

Cisco IP Phone には、次のハードウェア機能が備わっています。

- スピーカフォン モードとヘッドセット モードのボタン
- 電話機の機能にアクセスする 4 つのソフトキー ボタン
- メッセージ、ディレクトリ、サービス、および設定にアクセスするための 4 つの機能ボタン
- 電話回線、機能、短縮ダイヤル番号、およびサービス用のプログラマブル ボタン
- その場で情報を入手できるヘルプ ボタン





詳細については、次の図および表を参照してください。










図 1 Cisco IP Phone 7960



図2 Cisco IP Phone 7940









1	ハンドセットのライトストリップ	着信コールまたは新しいボイスメッセージがあることを示します。
2	電話スクリーン	電話機の機能を表示します。P.13の「電話スクリーンの機能」を参照してください。
3	モデルタイプ	Cisco IP Phone のモデルを示します。
4	プログラマブルボタン 	設定に応じて、プログラマブルボタンからは次にアクセスできます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>電話回線（回線ボタン）</li> <li>短縮ダイヤル番号（短縮ダイヤルボタン）</li> <li>Web ベースのサービス（個人アドレス帳ボタンなど）</li> <li>電話機の機能（プライバシーボタンなど）</li> </ul>
5	フットスタンドボタン	電話機本体の角度を調節します。
6	ディレクトリボタン 	[ディレクトリ]メニューを開閉します。履歴および社内ディレクトリにアクセスするために使用します。P.50の「履歴およびディレクトリの使用」を参照してください。
7	ヘルプボタン  または 	[ヘルプ]メニューをアクティブにします。P.19の「電話機に関するヘルプの表示」を参照してください。

8	設定ボタン 	[ セッテイ ]メニューを開閉します。電話スクリーンのコントラストおよび呼出音を制御するために使用します。P.45の「電話機の設定のカスタマイズ」を参照してください。
9	スピーカ ボタン 	スピーカフォン モードのオン / オフを切り替えます。
10	ミュート ボタン 	ミュート機能のオン / オフを切り替えます。
11	ヘッドセット ボタン 	ヘッドセット モードのオン / オフを切り替えます。
12	音量ボタン 	音量およびその他の設定を制御します。P.45の「電話機の設定のカスタマイズ」を参照してください。
13	サービス ボタン 	[ サービス ]メニューを開閉します。P.52の「ユーザ オプション Web ページへのアクセス」を参照してください。
14	メッセージ ボタン 	サービスによって異なりますが、通常はボイス メッセージ サービスに自動ダイヤルします。P.49の「ボイス メッセージへのアクセス」を参照してください。
15	ナビゲーション ボタン 	メニューのスクロールや項目の強調表示に使用します。ソフトキーと組み合わせて、強調表示された項目をアクティブにすることができます。
16	キーパッド	電話番号のダイヤル、文字の入力、およびメニュー項目の選択に使用します。
17	ソフトキー ボタン 	電話スクリーンに表示されているソフトキーのオプションをそれぞれアクティブにします。

## 電話スクリーンの機能

次の図は、アクティブなコールが 1 つ存在するメインの電話スクリーンの外観を示しています。また次の表は、電話スクリーンの機能の概要を示しています。



1	プライマリ電話回線	プライマリ電話回線の電話番号（内線番号）を表示します。
2	プログラマブル ボタンのラベル	<p>電話機のプログラマブル ボタン  の設定を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> 電話回線：それぞれ 1 つの回線ボタンに対応しています。電話機には、回線が 1 本しか割り当てられていない場合も、複数割り当てられている場合もあります。</li> <li> 短縮ダイヤル番号：それぞれ 1 つの短縮ダイヤル ボタンに対応しています。詳細については、P.47 の「短縮ダイヤル機能の設定」を参照してください。</li> <li> 電話機サービス：それぞれ 1 つの Web ベースの電話機サービスに対応しています（たとえば、個人アドレス帳ボタン）。</li> <li> 電話機の機能：それぞれ 1 つの特定の機能に対応しています（たとえば、プライバシー ボタン）。</li> </ul>
3	ソフトキーのラベル	ソフトキーの機能をそれぞれ表示します。ソフトキーをアクティブにするには、  （対応するソフトキー ボタン）を押します。
4	ステータス行	オーディオ モードのアイコン、ステータス情報、およびプロンプトを表示します。
5	コール アクティビティ領域	強調表示されている回線の現在のコールについて、発信者 ID、通話時間、コールの状態などの詳細情報を表示します。上の図では、回線「6060」が強調表示されています。関連する情報については、P.16 の「コールの表示とコール間の切り替え」を参照してください。

## 操作方法と機能の可用性について



Cisco IP Phone の操作方法および利用可能な機能は、お客様の社内で使用されるコール処理エージェント、またお客様の社内の電話機サポート チームが電話機システムを設定した内容により異なることがあります。このため、この電話ガイドに記載されている機能の一部がお使いの電話機システムで利用できない、または動作が異なる場合があります。操作方法や機能の可用性について確認する場合は、お客様の社内のサポート デスクまたはシステム管理者にお問い合わせください。

## コール処理とナビゲーションのヒント

このガイドラインは、Cisco IP Phone でのコールの処理、およびメニューのナビゲートに役立ちます。

### オンフックとオフフック

電話機がオンフックかオフフックかによって、電話機の作業や操作手順が異なる場合があります。

- **オンフック**：電話機のハンドセットが受け台に置かれている状態。アクティブになっているコールはなく、アクティブなダイヤル トーンも聞こえません。電話機には、オンフック ダイヤル（電話番号を入力または選択してからコールをアクティブにできる機能）が備わっています。電話機がオンフックになっている場合、 のアイコンが各電話回線の横に表示されます。
- **オフフック**：電話機のハンドセットが受け台から取り上げられているか、スピーカフォンがアクティブ、またはその他の方法によってダイヤル トーンが聞こえ、着信コールに 응답できる状態です。電話機がオフフックになっている場合、 のアイコンが該当する電話回線の横に表示されません。

### 回線とコールの違いについて

電話機の回線とコールを混同してしまうことがあります。混同しないためのヒントを次に示します。

#### 回線









Cisco IP Phone 7960 は最大 6 本、Cisco IP Phone 7940 は最大 2 本の回線をサポートします。電話機で使用可能な回線の数、システム管理者が電話機のプログラマブル ボタンに設定した内容によって異なります。電話機に割り当てられた回線数は、電話スクリーンの回線領域で確認します。電話機の回線数は、割り当てられた電話番号の数と同じです。

## コール

各回線では、複数のコールをサポートできます。つまり、1本の電話回線で複数のコールを処理できません。デフォルトでは、1本の回線に4つのコールが設定されますが、システム管理者はこの数を必要に応じて調整できます。回線の数にかかわらず、1台の電話機で一度に最大200のコールがサポートされます。

## コールのアイコンについて

電話機には、コールの状態（保留中か、呼び出し中か、接続中かなど）を判断するために役立つアイコンが表示されます。コールの状態を示すアイコンは、コール アクティビティ領域内で対応するコールの横に表示されます。

アイコン	コールの状態	説明
	接続コール	通話相手に現在接続されている状態です。電話機の機能の多くは、接続コールを前提にしています。
	着信コール、呼び出し中	いずれかの回線で着信コールの呼出音が鳴っています。詳細については、P.25の「コールへの応答」を参照してください。
	発信コール、呼び出し中	通話相手の回線で発信コールの呼出音が鳴っています。詳細については、P.20の「コールの発信」を参照してください。
	コールの保留	コールが保留されています。このアイコンが電話回線の横に表示されている場合、その回線のコールがすべて保留されていることを示します。
	発信コール、回線がビジー	発信したコールはビジーな回線にかかりました。
	リモートで使用中	共有回線の別の電話機に接続コールがあります。詳細については、P.36の「共有回線の使用」を参照してください。
	認証されたコール	このアイコンの説明については、P.40の「安全なコールの送受信」を参照してください。
	暗号化されたコール	このアイコンの説明については、P.40の「安全なコールの送受信」を参照してください。








## コールの選択




電話機の機能の多くは、その機能の対象となるコールが選択されていることを前提にしています。たとえば、4つのコールを保留にしている状態で、そのうちの2つだけを会議コールに参加させるとします。この場合は、会議コールに追加するコールを選択してから、機能を有効にします。

目的	必要な操作または状態の説明
コールを強調表示する	ナビゲーション ボタンを使用して、コールのリストをスクロールします。強調表示されているコールは、他のコールよりも少し濃く表示されます。
コールを選択する	接続コールまたは保留状態のコールを強調表示し、[センタク]を押します。選択されたコールの横に、 <input checked="" type="checkbox"/> が表示されます。
選択したコールを確認する	ナビゲーション ボタンを使用して、コールのリストをスクロールします。選択されたコールは <input checked="" type="checkbox"/> で示され、コールのリストでまとめて表示されません。

## コールの表示とコール間の切り替え

次に示すヒントは、1本または複数の回線でコールを切り替えるときに役立ちます。切り替え先のコールが自動的に強調表示されない場合は、ナビゲーション ボタンを使用してそのコールまでスクロールします。

目的	必要な操作または状態の説明
同じ回線のコールを切り替える	切り替え先のコールを強調表示し、[フッキ]を押します。もう一方のコールは自動的に保留状態になります。
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに 応答する	着信コールがかかっている回線で[アウトウ]または  を押します。この操作により、最初のコールが自動的に保留状態になります。
異なる回線のコールを切り替える	コールが保留になっている回線で  を押します（その回線には、コールの保留を示すアイコン  が表示されています）。回線で保留になっているコールが1つの場合、コールは自動的に復帰します。保留になっているコールが複数ある場合は、必要に応じて特定のコールまでスクロールし、[フッキ]を押します。
特定の回線におけるすべてのコールを表示する	 または  を押してから、すぐに回線ボタンを押します。この操作により、コールの詳細が表示されます。ただし、コールの状態は影響を受けません。そのため、ある回線で会話しながら他の回線で保留中のコールを確認する場合に、この機能は便利です。

目的	必要な操作または状態の説明
回線のアクティビティを表示する（回線ごとに1つのコール）	<p>強調表示されている回線で  を押します（回線は、関連付けられているコールが電話スクリーンに表示されると強調表示されます）。</p> <p>この操作により、電話機がコールの概要モードに切り替わり、回線ごとに1つのコールが表示されます。このコールは、アクティブなコール、または通話時間の最も長い保留中のコール（すべてのコールが保留中の場合）のいずれかになります。</p> <p>標準の表示に戻るには、 または  を押してから、すぐに回線ボタンを押します。</p>







## ヒント

- アクティブとなり得るコールは1つなので、他のコールは自動的に保留状態になります。
- 同じ回線に複数のコールがある場合は、優先順位が最も高く、通話時間の最も長いコールがコールのリストの先頭に表示されます。P.41の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
- 同じタイプのコールは、コールのリストでまとめて表示されます。たとえば、相互に通話したコールは先頭付近に、選択されたコールはその次に、そしてまだ応答していないコールは末尾付近にまとめて表示されます。

## 電話スクリーン項目の選択

電話スクリーンの項目の選択方法	操作
項目までスクロールする	ナビゲーション ボタンを押して、リストの項目を強調表示します。対応するソフトキー（[センタク]や[ダイヤル]など）を押して、操作を終了します。
項目番号を指定する	キーパッドで該当する番号を押します。たとえば、メニューの4番目の項目を選択するには、4を押します。

## 機能メニューの使用方法




目的	必要な操作または状態の説明
機能メニューを開閉する	次の機能ボタンを押します。  メッセージ  サービス  ディレクトリ  設定  または  ヘルプ
リストまたはメニューをスクロールする	ナビゲーション ボタンを押します。
機能メニューの1つ前のレベルに戻る	[ シュウリョウ ] を押します。このとき、メニューの最上位レベルで [ シュウリョウ ] を押すと、メニューが閉じます。

## テキストの入力と編集

目的	必要な操作または状態の説明
電話スクリーンに文字を入力する	キーパッドで該当する番号を何度か押して、ポップアップメニューから文字（大文字 / 小文字の区別を含む）を選択します。休止すると、カーソルが自動的に先へ移動し、次の文字を入力できる状態になります。
入力した文字を削除、またはカーソルの位置を変更する	文字や数字を1つ削除するには、<< または [ サクジヨ ] を押します。>> を押すと、カーソルが右に移動します。

## 電話機に関するヘルプの表示

Cisco IP Phone には、固有のボタンや機能を備えた、その場で情報を入手できるヘルプが用意されています。ヘルプの項目は電話スクリーンに表示されます。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
ボタンやソフトキーを確認する	① または ? を 1 回押してから、すぐにボタンまたはソフトキーを押します。
メニュー項目を確認する	 ,  , または  を押して、機能メニューを表示します。メニュー項目を強調表示し、① または ? をすばやく 2 回押します。
ヘルプを使用してヘルプを表示する	① または ? をすばやく 2 回押します (最初にメニュー項目を選択しません)。
アクティブなコールに関するネットワーク統計を表示する	コールがアクティブなときに ① または ? をすばやく 2 回押します。

## ボタン アイコンについて







電話機によっては、アイコンではなく文字が表示されたボタンを備えている場合があります。ただし、この電話ガイドでは、アイコンの付いたボタンの図を使用しています。このガイドで使用されているボタンアイコンの説明については、P.10 の「ボタンとハードウェア」、またはこのガイドの冒頭にあるはぎ取り式のクイック リファレンス カードの「ボタンの機能」を参照してください。




# 基本的なコール処理





この項では、コールの発信、応答、および転送など、基本的なコール処理のタスクについて説明します。これらのタスクの実行に使用する機能は標準的なもので、ほとんどの電話機で利用できます。




## コールの発信

コールを発信するには、ハンドセットを取り上げてダイヤルします。または、次の表に示すオプションのいずれかを使用します。

目的	必要な操作または状態の説明
オンフックでダイヤルする(ダイヤルトーンなし)	電話番号を入力し、次のいずれかの操作を行ってオフフックにします。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ハンドセットを取り上げます。</li><li>•  または  を押します。</li><li>• <b>[ダイヤル]</b> を押します。</li><li>•  (回線ボタン) を押します。</li></ul>
スピーカフォンを使用してダイヤルする	<b>[ハッシン]</b> を押し、電話番号を入力します。ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に  を押してもかまいません。  ハンドセットが受け台に置かれていて、  が点灯していないときに電話番号をダイヤルすると、通常はスピーカフォンモードが自動的に有効になります。これは、 <b>[リダイヤル]</b> または短縮ダイヤル ボタンを押した場合も同様です。
最後にダイヤルした電話番号にリダイヤルする	<b>[リダイヤル]</b> を押します。デフォルトでは、プライマリ回線がリダイヤルに使用されます。ただし、セカンダリ回線を開いてから <b>[リダイヤル]</b> を押してもかまいません。回線を開くには、  を押します。


目的	必要な操作または状態の説明
短縮ダイヤルを使用する	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• オフフックにする前または後に  (短縮ダイヤル ボタン) を押します。</li> <li>• オンフックの状態では短縮ダイヤルのインデックス番号 (キーボードの 1 ~ 99) を入力し、[タンシユク] を押します。</li> </ul> <p>詳細については、P.47 の「短縮ダイヤル機能の設定」を参照してください。</p>
別のコールがアクティブなときにコールを発信する (新しい回線を使用)	新しい回線で  を押します。この操作により、最初のコールが自動的に保留状態になります。
別のコールがアクティブなときにコールを発信する (同じ回線を使用)	[ホリユウ] を押してから [ハッシン] を押し、次にダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルのいずれかを行います。あるいは、アクティブなコールで会話を続け、その間に履歴または社内ディレクトリからダイヤルするよう準備します。詳細については、この表の次の 2 行を参照してください。
履歴からダイヤルする	<p> &gt; [フザイリレキ]、[チャクシンリレキ]、または [ハッシンリレキ] を選択し、次に番号までスクロールしてオフフックにします。プレフィックス番号やその他の番号を追加するには、[ヘンシユウ] を押します。</p> <p>コールがアクティブなときに履歴からダイヤルする場合は、番号までスクロールして [ダイヤル] を押します。元のコールの処理に対応するソフトキーを、次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ホリユウ]: 最初のコールを保留にし、2 番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [シュウリョウ]: 最初のコールを切断し、2 番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [テンソウ]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します ([テンソウ] を 2 回押します)。</li> <li>• [カイギ]: すべての通話相手との間で会議コールを作成します ([カイギ] を 2 回押します)。</li> </ul>

目的	必要な操作または状態の説明
電話機の社内ディレクトリからダイヤルする	<p> &gt; [シャナイディレクトリ] を選択します（名前は異なる場合があります）。キーパッドを使用して文字を入力し、[ケンサク] を押します。ダイヤルするには、リストをスクロールして選択し、オフフックにします。</p> <p>コールがアクティブなときに社内ディレクトリからダイヤルする場合は、リストをスクロールして選択し、[ダイヤル] を押します。元のコールの処理に対応するソフトキーを、次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ホリユウ]: 最初のコールを保留にし、2 番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [シュウリョウ]: 最初のコールを切断し、2 番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [テンソウ]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します（[テンソウ] を 2 回押します）。</li> <li>• [カイギ]: すべての通話相手との間で会議コールを作成します（[カイギ] を 2 回押します）。</li> </ul>
社内ディレクトリの Web ページからダイヤルする	<p>Cisco WebDialer の機能を使用します。Web ブラウザを起動して、社内ディレクトリのページへ移動します。ディレクトリの電話番号をクリックします。コールを発信するには [ダイヤル] をクリックします。コールを終了するには [コールの終了] をクリックします。詳細については、『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』（<a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a>）を参照してください。</p>
ヘッドセットを使用してダイヤルする	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•  が点灯していない場合は、ダイヤル、リダイヤル、または短縮ダイヤルの操作を行う前または後に押します。</li> <li>•  が点灯している場合は、[ハッシン]、[リダイヤル]、または （回線ボタンまたは短縮ダイヤル ボタン）を押します。または、電話番号を入力して [ダイヤル] を押します。</li> </ul>
話し中または呼び出し中の内線が対応可能になったときに通知を受信する	<p>電話番号にコールし、ビジー音または呼出音が聞こえているときに [オリカエシ] を押します。切断します。内線が対応可能になると、電話機にメッセージが表示され、呼出音が鳴ります。この電話番号へのコールバックは自動的に行われません。コールを発信する必要があります。コールバックは特別な機能なので、システム管理者に設定を依頼します。通話相手がコール転送機能を有効にしている場合、コールバックは失敗します。</p>

目的	必要な操作または状態の説明
プライオリティ (Precedence) コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。詳細については、P.41 の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。
Personal Address Book (PAB; 個人アドレス帳) のエントリまたはファーストダイヤルコードからダイヤルする	 >PAB service または Fast Dial service を選択します(名前は異なる場合があります)。リストからダイヤルするには、番号をスクロールして選択し、オフフックにします。PAB またはファーストダイヤルサービスへの登録については、P.52 の「ユーザ オプション Web ページへのアクセス」を参照してください。
課金コードまたはトラッキングコードを使用してコールを発信する	番号をダイヤルし、固定呼出音が鳴ったら、ユーザ固有のコードであるクライアント マターコード (CMC) または認証に必要な Forced Authorization Code (FAC) コードを入力します。クライアント マターコードまたは認証に必要な FAC コードを入力する必要があるかどうか、またその他の詳細は、システム管理者によって指示されます。
Cisco エクステンション モビリティ プロファイルを使用してコールを発信する	使用する予定の電話機で Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) にログインしていることを確認します。  >EM Service を選択します(名前は異なる場合があります)。次に、キーパッドを使用してログイン情報を入力します。共有の作業スペースで 1 台の電話機を使用している場合は、EM にログインしてから所定の機能にアクセスするか、コールを完了する必要があります。  EM は特別な機能なので、システム管理者に電話機や電話機ユーザへの割り当てを依頼します。『Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』( <a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a> )を参照してください。
ビデオ コールを発信する	電話スクリーンに  のアイコンが表示されているかどうかを確認します。  このアイコンが存在する場合、電話機ではビデオが使用可能で、Cisco VT Advantage をサポートしています。この機能を使用すると、Cisco IP Phone、コンピュータ、および外部のビデオ カメラを使用してビデオ コールを発信できます。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。また、『Cisco VT Advantage クイック スタート ガイド』および『Cisco VT Advantage ユーザ ガイド』( <a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a> )を参照してください。









## ヒント

- 電話番号を間違えて入力した場合は、<< を押して数値を消去します。ダイヤル操作を中止するには、[キャンセル] を押します。
- 電話機をオンフックにしてダイヤルしている場合は、電話番号の先頭に \* と # を使用できません。これらのキーを使用する必要がある場合は、電話機をオフフックにしてダイヤルします。
- ダイヤル トーンが聞こえない、またはコールを完了できない場合は、次の状況の 1 つ以上が当てはまります。必要に応じて、システム管理者に問い合わせて詳細情報を入手してください。
  - 電話機の  ボタンからエクステンション モビリティ サービスにログインする必要があります。
  - クライアント マターコードまたは認証に必要な FAC コードを入力してから番号をダイヤルする必要があります。
  - 電話機に時間制限が設定されていて、一日の特定の時間帯に一部の機能が使用できなくなっています。



## コールへの応答

コールに応答するには、ハンドセットを取り上げてオフフックにします。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
ヘッドセットで応答する	<p> が点灯していない場合は押します。</p> <p> がすでに点灯している場合は、[オウトウ]または  (着信コールがかかっている回線ボタン) を押します。</p>
スピーカフォンで応答する	<p>、[オウトウ]、または  (着信コールがかかっている回線ボタン) を押します。</p>
接続コールから切り替えて呼び出し中のコールに応答する	<p>[オウトウ]または  (着信コールがかかっている回線ボタン) を押します。新しいコールへの応答と、最初のコールの保留が自動的に行われます。詳細については、P.27の「コールの保留と復帰」を参照してください。</p>
コール ウェイティングを使用して応答する	<p>電話機のコール ウェイティング機能を設定するように、システム管理者に依頼します。</p> <p>この機能を有効にしておくと、電話中に新しいコールが着信したときに、コール ウェイティングを知らせるトーンを鳴らし、発信者 ID 情報を表示します。コールに応答するには、[オウトウ]を押します。元のコールに戻るには、このコールを保留にする必要があります。P.27の「コールの保留と復帰」を参照してください。</p>
呼出音が 1 ~ 2 回鳴った後で着信コールに自動的に接続する	<p>自動応答機能の設定をシステム管理者に依頼します。詳細については、P.44の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。</p>
別の電話機(会議室の電話機など)で保留状態になっているコールを取得するか、他の人に取得してもらう	<p>コール パークを使用します。P.34の「パークされているコールの保存と取得」を参照してください。</p>
自分の電話機を使用して別の電話機で鳴っているコールに応答する	<p>コール ピックアップを使用します。P.36の「共有回線の使用」を参照してください。</p>
プライオリティ コールに応答する	<p>現在のコールを切断して [オウトウ] を押します。P.41の「重要なコールの優先順位付け」を参照してください。</p>
着信コールをボイス メッセージ システムに直接送信する	<p>[ソクテンソウ] を押します。コールがボイス メッセージ グリーティングに自動転送されます。</p>



## コールの終了

コールを終了するには、切断します。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
ハンドセットを使用しているときに切断する	ハンドセットを受け台に戻し、 <b>[シュウリョウ]</b> を押します。
ヘッドセットを使用しているときに切断する	 を押します。ヘッドセットモードをアクティブにしておく場合は、 <b>[シュウリョウ]</b> を押します。切断した後もボタンが点灯した状態になります。
スピーカフォンを使用しているときに切断する	 または <b>[シュウリョウ]</b> を押します。
複数のコールがある場合に1つのコールだけを切断する	<b>[シュウリョウ]</b> を押します。必要に応じて、コールの保留を解除しておきます。

## コールの保留と復帰

アクティブとなり得るコールは常に 1 つに限定されるので、他のコールはすべて自動的に保留状態になります。



目的または状態	必要な操作または状態の説明
コールを保留状態にする	保留状態にするコールが強調表示されていることを確認し、[ホリユウ]を押します。
現在の回線にあるコールの保留を解除する	必要に応じて特定のコールまでスクロールし、[フッキ]を押します。
別の回線にあるコールの保留を解除する	保留中のコールがある回線で  を押します（その回線には、コールの保留を示すアイコン  が表示されています）。この回線で保留になっているコールが 1 つの場合、コールは自動的に復帰します。保留になっているコールが複数ある場合は、必要に応じて特定のコールまでスクロールし、[フッキ]を押します。

### ヒント

コールが保留状態になっているとき、通常は音楽やピープ音が流れます。そのため、会議コールは保留にしないでください。

## ミュートの使用

ミュートを使用すると、ハンドセット、ヘッドセット、スピーカフォン、または外部マイクロフォンの音声入力が無効になります。ミュートが有効な場合、コールの通信相手からの音声は聞こえますが、自分からの音声は通信相手に聞こえません。

目的	必要な操作または状態の説明
ミュートをオンにする	 を押します。
ミュートをオフにする	 を押します。

## 接続コールの転送

接続コールは転送によってリダイレクトされます。転送先は、コールの転送先となる電話番号です。

目的	必要な操作または状態の説明
転送先の相手と会話せずにコールを転送する	<p>【<b>テンソウ</b>】を押して、転送先の電話番号を入力します。コールの呼出音が聞こえたら、切断します。</p> <p>システム管理者がオンフック転送を有効にしていない場合は、【<b>テンソウ</b>】をもう一度押して転送を完了します。転送をキャンセルするには、【<b>シュウリョウ</b>】を押します。</p>
転送先の相手と会話してからコールを転送する（打診転送）	<p>【<b>テンソウ</b>】を押して、転送先の電話番号を入力します。相手が応答するのを待ちます。相手がコールの転送を承諾した場合は、【<b>テンソウ</b>】をもう一度押します。相手がコールの転送を拒否した場合は、【<b>フッキ</b>】を押して元のコールに戻ります。</p> <p>システム管理者がオンフック転送を有効にしていない場合は、【<b>テンソウ</b>】をもう一度押して転送を完了します。転送をキャンセルするには、【<b>シュウリョウ</b>】を押します。</p>
2つの現在のコールを相互に転送する（直接転送）	<p>その回線における任意のコールをスクロールして強調表示し、【<b>センタク</b>】を押します。2番目のコールに対しても同じ処理を行います。選択したコールの1つが強調表示されている状態で【<b>D テンソウ</b>】を押します（必要に応じて、【<b>D テンソウ</b>】を表示するために【<b>ツギヘ</b>】を押します）。2つのコールが相互に接続され、自分のコールは終了されます。</p> <p>発信者との通信を継続する場合は、代わりに【<b>サンカ</b>】を使用して会議を作成します。詳細については、P.30の「会議コールの使用方法」を参照してください。</p>

### ヒント


- オンフック転送が有効になっている場合は、切断するか、または【**テンソウ**】を押してから切断することができます。
- オンフック転送が電話機で有効になっていない場合は、【**テンソウ**】を押さずに切断すると、転送の動作がキャンセルされ、転送対象の通話相手が保留状態になることに注意してください。
- 【**テンソウ**】を使用して保留中のコールをリダイレクトすることはできません。【**テンソウ**】を押して、転送前にコールの保留を解除してください。

## 別の電話番号へのコール転送

[フザイ]を使用すると、自分の Cisco IP Phone にかかってくる着信コールを別の電話番号にリダイレクトできます。



(注) [フザイ]の転送先番号は、自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードをダイヤルします。

目的	必要な操作または状態の説明
プライマリ回線のコール転送を設定する	[フザイ]を押し、転送先の電話番号を入力します。
プライマリ回線のコール転送をキャンセルする	[フザイ]を押します。
プライマリ回線のコール転送が有効になっているかどうかを確認する	プライマリ回線に  のアイコンが表示されていることを確認します。さらに、電話スクリーンの下部にあるステータス行を確認します。ここにはコール転送の転送先番号が表示されます。
任意の回線のコール転送を設定またはキャンセルする	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから [すべてのコールを別の番号に転送] を選択します。電話機の回線ごとにコール転送を設定またはキャンセルできます。ログインの手順については、P.53 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。  コール転送がプライマリ回線以外で有効になっている場合、電話機にはコール転送の状態が表示されません。その代わりとして、ユーザ オプション ページで設定を確認する必要があります。

### ヒント

- 従来のアナログ電話機、または他の IP Phone にコールを転送することができます (ただし、システム管理者がコール転送機能を社内の番号に制限している場合があります)。
- この機能は回線ごとに設定する必要があります。コール転送が有効でない回線にコールがかかってきた場合、通常どおりコールの呼出音が鳴ります。

# 会議コールの使用方法

Cisco IP Phone では、3 名以上を 1 台の電話機の会話に参加させ、会議コールを作成できます。

## サポートされている会議コールのタイプ

会議コールには、標準の会議と Meet-Me 会議の 2 つのタイプがあります。

### 標準の会議コール

標準の会議コール（つまり Ad-Hoc 会議コール）では、会議の開催者が参加者にコールし、各参加者を会議に追加する必要があります。Cisco IP Phone では、必要性や電話機の設定に応じて、次のように複数の方法で標準の会議コールを作成できます。

- **[カイギ]**: このソフトキーは、参加者それぞれにコールをかけることによって、標準の会議を開催するときに使用します。標準の会議コールは、ほとんどの電話機で利用可能なデフォルトの機能です。
- **[サンカ]**: このソフトキーは、すでに同じ 1 本の回線にある複数のコールの間で、標準の会議コールを開催するときに使用します。
- **[Cワリコミ]**: このソフトキーは、共有回線の既存のコールに自分を追加し、そのコールを標準の会議コールに切り替えるときに使用します。これは共有回線だけで利用可能なオプション機能のため、システム管理者に設定を依頼する必要があります。詳細については、P.36 の「共有回線の使用」を参照してください。

手順の詳細については、P.31 の「標準の会議の開催と参加」を参照してください。

### Meet-Me 会議コール

Meet-Me 会議では、会議の開催者からコールされるのを待つのではなく、参加者が会議番号を直接ダイヤルして会議に参加することができます。

Meet-Me 会議を開催するには、電話機で [ミートミー] ソフトキーを使用し、システム管理者から提供された Meet-Me 電話番号をダイヤルします。Meet-Me 会議に参加するには、指定された時間に Meet-Me 電話番号をダイヤルします。会議の開催者がダイヤルインする前に、会議の参加者が会議にコールした場合、その参加者にはビジー音が聞こえます。会議の開催者がダイヤルインすると、Meet-Me 会議が開催され、その後は会議の開催者が切断しても Meet-Me 会議は継続できます。Meet-Me 会議は特別な機能のため、システム管理者に設定を依頼します。

手順の詳細については、P.33 の「Meet-Me 会議コールの開催または参加」を参照してください。

## 標準の会議の開催と参加

標準の会議では、1つのコールに3名以上の人々が参加できます。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
参加者にコールを発信して標準の会議コールを開催する	接続コール中に、別の発信者をコールに追加するには、[ <b>カイギ</b> ]を押します（必要に応じて、[ <b>カイギ</b> ]を表示するために[ <b>ツギへ</b> ]ソフトキーを押します）。会議の参加者の電話番号を入力します。コールが接続され、会議の参加者と会話した後、[ <b>カイギ</b> ]をもう一度押して、この発信者をコールに追加します。この操作を繰り返して、参加者を1人ずつ追加します。
現在の発信者を標準の会議の参加者として追加する	1つの回線に2つ以上のコールがあるとき、その回線で任意のコールをスクロールして強調表示し、[ <b>センタク</b> ]を押します。会議に追加するすべてのコールについて、それぞれ同じ処理を行います。選択したコールのいずれかで、[ <b>サンカ</b> ]を押します（必要に応じて、[ <b>サンカ</b> ]を表示するために[ <b>ツギへ</b> ]ソフトキーを押します）。アクティブなコールが選択され、自動的に会議に追加されます。
標準の会議に参加する	呼出音が鳴ったら電話機に応答します。標準の会議コールに参加する場合、特別な操作は何も必要ありません。
共有回線のコールに割り込み（自分を追加し）、そのコールを標準の会議コールに切り替える	共有回線でコール（リモートで使用中心）を強調表示し、[ <b>C ワリコミ</b> ]を押します（必要に応じて、[ <b>C ワリコミ</b> ]を表示するために[ <b>ツギへ</b> ]ソフトキーを押します）。コールの他の参加者に対して、割り込みを知らせるピープ音が鳴ります。詳細については、P.36の「共有回線の使用」を参照してください。
会議の参加者のリストを表示する	アクティブな会議を強調表示し、[ <b>サンカシャ</b> ]を押します。会議に参加した順序に従って、参加者がリストに表示されます。最後に追加された参加者がリストの先頭になります。
会議の参加者のリストを更新する	会議の参加者のリストを表示している状態で、[ <b>コウシン</b> ]を押します。
会議の開催者を確認する	会議のリストを表示している状態で、リストの末尾までスクロールして、会議の開催者（名前の横にアスタリスク（*）の付いた人物）を検索します。
会議に最後に追加された参加者を削除する	会議の参加者のリストで、先頭にある参加者の名前を強調表示し、[ <b>サクジョ</b> ]を押します（最後の参加者は常にリストの先頭に表示されます）。会議の参加者のリストを表示していない場合は、[ <b>ドロップ</b> ]を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。



目的	必要な操作または状態の説明
会議の任意の参加者を削除する	参加者の名前を強調表示し、[サクジョ]を押します。参加者を削除できるのは、会議コールの開催者だけです。
標準の会議への参加を終了する	<p>切断するか、または[シュウリョウ]を押します。会議コールの開催者でない場合、切断しても他の参加者の接続を中断することはありません。</p> <p>会議コールの開催者である場合は、切断すると会議が終了することがあります（システム管理者が電話機を設定した内容によって異なります）。会議が終了しないようにするには、会議を他の参加者に転送してから切断します。その後はその参加者が、会議の「仮想管理者」としての役割を果たすこととなります。仮想管理者は参加者の追加や削除はできません。会議は既存の参加者で続行します。</p>

## ヒント

- 標準の会議コールに複数のコールを追加するには、それらのコールが同じ回線にある必要があります。コールがそれぞれ異なる回線にある場合は、それらのコールを1本の同じ回線に転送してから[カイギ]または[サンカ]を押します。
- [サンカ]を使用しようとしたとき、「サンカシャジョウハウガアリマセン」というエラーメッセージが表示された場合は、アクティブなコールのほかに少なくとも1つのコールを選択していることを確認してください（アクティブなコールは自動的に選択されます）。
- 電話機の設定内容によっては、会議を開催した後でその会議を切断すると、会議が終了する場合があります。詳細については、上の表の最後にある行を参照してください。

## Meet-Me 会議コールの開催または参加

Meet-Me 会議では、会議の開催者からコールされるのを待つのではなく、参加者が会議番号を直接ダイヤルして会議に参加することができます。次の表に詳細を示します。

目的	必要な操作または状態の説明
Meet-Me 会議を開催する	<p>[ハッシン] を押すか、またはハンドセットを取り上げてオフフックにします。[ミートミー] を押し、Meet-Me 会議番号をダイヤルします（有効な番号のリストについては、管理者に確認してください）。</p> <p>参加者がダイヤルインできるように、必ず会議番号を参加者に通知してください。ただし、会議の開催者がダイヤルインする前に、参加者が会議番号をコールした場合、その参加者にはビジー音が聞こえます。</p>
Meet-Me 会議に参加する	<p>Meet-Me 会議番号をダイヤルします（この番号は会議の開催者から提供されます）。会議の開催者がダイヤルインした後でなければ、会議には接続されません。</p>
Meet-Me 会議を終了する	<p>切断するか、または [シュウリョウ] を押します。</p>

# 応用的なコール処理

応用的なコール処理のタスクには、特別な（標準以外の）機能が伴うため、コール処理の需要や作業環境に応じて、システム管理者に電話機の設定を依頼します。これらの機能には、システム管理者による設定がない限りアクセスできません。

## パークされているコールの保存と取得

コールをパークすると、コールを保存し、Cisco CallManager システムの別の電話機（同僚のデスクや会議室の電話機など）でコールを取得できます。コールパークの機能を使用するには、システム管理者に設定を依頼する必要があります。


目的	必要な操作または状態の説明
コールパークを使用してアクティブなコールを保存する	コール中に【パーク】を押します（必要に応じて、【パーク】を表示するために【ツギへ】ソフトキーを押します）。電話機にコールが保存されず、電話スクリーンに表示されたコールのパーク番号を書き留めて、切断します。
パークされたコールを取得する	ネットワーク内の任意の Cisco IP Phone でコールのパーク番号を入力し、コールに接続します。  パークされているコールを取得するまでの時間は制限されていて、その時間を過ぎると元の電話機に戻って呼出音が鳴ります。この時間制限については、システム管理者にお問い合わせください。

## 自分の電話機で他の電話機の着信に応答する

コール処理を同僚と分担している場合に、電話機のコール ピックアップを有効にすると便利です。コール ピックアップでは、同僚の電話機で呼び出し中のコールを自分の電話機にリダイレクトすることによって、そのコールに応答できます。コール ピックアップ機能を使用すると、自分のコール ピックアップグループ ([ **ピック** ])、別のコール ピックアップグループ ([ **G ピック** ])、または自分のグループに関連付けられているグループ ([ **ソノタ Grp** ]) に属する同僚に代わって、コールを処理することができます。

目的	必要な操作または状態の説明
自分のコール ピックアップグループ内の内線で鳴っているコールに応答する	<p>[ <b>ピック</b> ] を押してコールに接続します ([ <b>ピック</b> ] を押すには、オフフックにしなければならない場合もあります)。</p> <p>システム管理者が自動ピックアップを有効にしていない場合は、[ <b>ピック</b> ] を押したときに、自分の電話機でコールの呼出音が鳴ります。この場合、[ <b>アウトウ</b> ] を押してコールに接続します。</p>
グループ外の内線で鳴っているコールに応答する	<p>[ <b>G ピック</b> ] を押します ([ <b>G ピック</b> ] を押すには、オフフックにしなければならない場合もあります)。システム管理者から提供されたグループ ピックアップのコードを入力して、コールに接続します。</p> <p>システム管理者が自動ピックアップを有効にしていない場合は、[ <b>G ピック</b> ] を押してグループ ピックアップのコードを入力したときに、自分の電話機でコールの呼出音が鳴ります。この場合、[ <b>アウトウ</b> ] を押してコールに接続します。</p>
自分のグループ内または関連付けられているグループ内の内線で鳴っているコールに応答する	<p>[ <b>ソノタ Grp</b> ] を押してコールに接続します ([ <b>ソノタ Grp</b> ] を押すには、オフフックにしなければならない場合もあります)。</p> <p>システム管理者が自動ピックアップを有効にしていない場合は、[ <b>ソノタ Grp</b> ] を押したときに、自分の電話機でコールの呼出音が鳴ります。この場合、[ <b>アウトウ</b> ] を押してコールに接続します。</p>

### ヒント

- [ **ピック** ] と [ **G ピック** ] を押すと、最も長くなり続けているコールに接続します。
- [ **ソノタ Grp** ] では、システム管理者は複数のコール ピックアップグループを自分のグループに関連付け、それらのグループにプライオリティを割り当てることができます。[ **ソノタ Grp** ] を押すと、プライオリティの最も高いピックアップグループ内の呼び出し中のコールに接続します。
- プライマリ回線以外の内線に対するコールに応答する場合は、最初に  (使用可能な回線ボタン) を押してからコール ピックアップのソフトキーを押します。


## 共有回線の使用

システム管理者によって電話機に「共有」回線が割り当てられていることがあります。通常、共有回線には次の2種類の用途があります。

- 1人で複数の電話機を使用する：たとえば、共有回線をデスクの電話機と実験室の電話機に割り当てる場合です。この場合、共有回線への着信コールは両方の電話機で鳴り、いずれの電話機でもコールに応答できます。
- 複数の人々が1本の回線を共有する：たとえば、1本の共有回線で大勢の人々が複数の着信コールを処理する場合、またはマネージャが内線番号をアシスタントと共有する場合です。

## 共有回線について

### リモートで使用中

共有回線を使用していると、リモートで使用中のアイコン  が自分の電話スクリーンに表示される場合があります。このアイコンは、同僚が現在共有回線を使用していることを示します。リモートで使用中のアイコンが表示されている場合でも、共有回線では通常どおりにコールの発信や受信を行うことができます。

### コール情報の共有と割り込み

回線を共有している同僚がプライバシー機能を有効にしていない限り、自分の電話スクリーンには、共有回線で同僚が発信または受信するコールに関する情報が表示されます。この情報には、発信者 ID や通話時間などが含まれます。これとは逆に、自分が共有回線を使用しているときは、自分のコールに関する情報が同僚の電話スクリーンに表示されます。

コールに関する情報がこのように表示されているときは、割り込み機能または C 割り込み機能を使用して、共有回線のコールに参加することができます。共有回線のコールに参加することを「割り込み」といいます。割り込みの詳細については、P.37 の「共有回線のコールへの参加」を参照してください。

### プライバシー



回線を共有している同僚に対して自分のコールに関する情報が表示されないようにするには、プライバシー機能を有効にします。この機能を有効にすると、自分のコールに同僚が割り込むのを防止することもできます。P.38 の「他者による共有回線のコールの表示および割り込みの防止」を参照してください。

## 共有回線でサポートされる最大コール数

共有回線でサポートされるコールの最大数は、電話機によって異なります。そのため、回線を共有している同僚は新しいコールをかけることができても、自分にはできないことがあります。たとえば、自分の電話機が共有回線でサポートするコールは最大 4 つで、同僚の電話機は同じ回線で 5 つのコールをサポートするとします。この場合、回線に 4 つのコールが存在するとき、自分は [ハッシン] ソフトキーを使用できませんが、同僚は使用できます。

## 共有回線のコールへの参加

共有回線を使用している場合、システム管理者によって割り込み機能または C 割り込み機能が設定されていることがあります。このいずれかの機能を使用すると、共有回線のアクティブなコールに参加できます。通常、設定されるのはどちらか 1 つの機能だけです。

目的	必要な操作または状態の説明
共有回線で同僚がアクティブなコール中かどうかを確認する	共有回線番号を確認します。回線が別の電話機で使用中の場合は、リモートで使用中のアイコン  が表示されます。  同僚がプライバシー機能を有効にしている場合、[ワリコミ] ソフトキーおよび [C ワリコミ] ソフトキーが使用できないので、コールに割り込むことができません。この場合、プライベートコールに関する情報を自分の電話スクリーンで表示できません。ただし、引き続き共有回線を使用して、新しいコールを発信したり受信したりすることはできます。
共有回線でアクティブなコールを確認する	使用中の共有回線で  を押します。プライベートコール以外はすべてコールアクティビティ領域に表示されます。
[ワリコミ] ソフトキーを使用して共有回線のコールに参加する	リモートで使用中のコールを電話スクリーンで強調表示し、[ワリコミ] を押します（必要に応じて、[ワリコミ] を表示するために [ツギへ] ソフトキーを押します）。他の参加者に対して自分の割り込みを知らせるビープ音が鳴ります。  コールを切断すると、他の参加者に切断音が聞こえ、元のコールが続行します。



目的	必要な操作または状態の説明
[Cワリコミ]ソフトキーを使用して共有回線のコールに参加する	<p>リモートで使用中のコールを電話スクリーンで強調表示し、[Cワリコミ]を押します(必要に応じて、[Cワリコミ]を表示するために[ツギへ]ソフトキーを押します)。他の参加者にトーンと短い中断音が聞こえ、電話スクリーン上のコールに関する情報が変更されます。</p> <p>割り込み機能とは異なり、C割り込み機能を使用すると、コールが標準の会議コールに切り替えられ、会議への新しい参加者をコールに追加できるようになります。C割り込みを使用した会議の機能の詳細については、P.30の「会議コールの使用方法」を参照してください。</p> <p>コールを切断すると、3名以上の参加者が回線に残っている場合に限り、そのコールは会議コールとして続行します。</p>

## ヒント

- [ワリコミ]ソフトキーおよび[Cワリコミ]ソフトキーは、プライベートコールには使用できません。
- 使用している電話機に暗号化機能が設定されていない場合、暗号化されたコールには割り込みできません。この理由によって割り込みの試行が失敗すると、電話機で速いビジー音が聞こえます。P.40の「安全なコールの送受信」を参照してください。
- [ワリコミ]を使用して参加したコールが保留状態になるか、転送されるか、または会議コールに切り替えられた場合は、そのコールから切断されます。

## 他者による共有回線のコールの表示および割り込みの防止

共有回線を使用している場合、プライバシー機能を使用すると、回線を共有している他者が自分のコールを表示したり自分のコールに割り込んだりする(共有回線で割り込み機能やC割り込み機能を使用してコールに参加する)のを防止することができます。

目的	必要な操作または状態の説明
他者が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを防止する	[ヒツウチ]を押してプライバシー機能を有効にします。プライバシー機能がオンになっていると、  のアイコンがプライバシー機能ボタンの横に表示されます。
他者が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを許可する	[ヒツウチ]を押してプライバシー機能を無効にします。プライバシー機能がオフになっていると、  のアイコンがプライバシー機能ボタンの横に表示されます。

## ヒント

- 回線を共有している電話機でプライバシー機能が有効になっている場合、共有回線を通常どおり使用して、コールの発信や受信ができます。ただし、共有回線の既存のコールに参加することはできず、割り込みやC割り込みのソフトキーは使用できません。
- プライバシー機能は、使用している電話機のすべての共有回線に適用されます。したがって、複数の共有回線が割り当てられている電話機でプライバシー機能を有効にすると、自分が共有している回線すべてにおいて、同僚がコールを表示したりコールに割り込んだりすることを防止できます。

## 不審なコールのトレース

不審（迷惑）なコールを受信している場合、システム管理者は電話機に Malicious Call Identification (MCID) 機能を追加できます。この機能を使用すると、アクティブなコールを不審なコールとして識別できます。その結果、一連のトラッキングと通知のメッセージが自動的に発信されます。

目的	必要な操作または状態の説明
不審なコールを識別する	[ <b>メイワクコ</b> ] を押します。特別なトーンが聞こえ、電話機に「メイワクコガセイコウシマシタ」というメッセージが表示されます。このコールは終了しない限りアクティブです。





## 安全なコールの送受信

システム管理者が電話機システムをどのように設定したかによって異なりますが、電話機では安全なコールの送受信がサポートされます。

電話機では、次のタイプのコールをサポートできます。

- 認証されたコール：コールに参加しているすべての電話機の ID が検証されています。
- 暗号化されたコール：電話機は、Cisco IP ネットワーク内で暗号化されたオーディオ（会話）を送受信しています。暗号化済みのコールは認証済みのコールでもあります。
- ノンセキュア コール：参加している電話機または接続の少なくとも 1 つでセキュリティ機能がサポートされていないか、電話機が検証できません。

目的	必要な操作または状態の説明
コールのセキュリティ レベルを確認する	次のいずれかのセキュリティ アイコンが接続コールの通話時間タイマーの右側に表示されていることを確認します。  認証されたコール  暗号化されたコール コールがノンセキュアの場合は、どちらのセキュリティ アイコンも表示されません。
社内で安全なコールを発信できるかどうかを判断する	システム管理者にお問い合わせください。



(注) 相互作用や制約、制限によって、電話機におけるセキュリティ機能の動作が悪影響を受ける場合があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

## 重要なコールの優先順位付け

官庁のような特別な環境では、緊急または重要なコールを発信および受信しなければならない場合があります。重要なコールは、プライオリティの高い処理（他のコールを後回しにするなど）を必要とします。この特別なコール処理が必要な場合は、電話機への Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) の追加をシステム管理者に依頼します。

次の用語に留意してください。

- *Precedence* : コールに関連付けられたプライオリティを示します。
- *Preemption* : プライオリティの低い既存のコールを終了して、電話機に送信されたプライオリティのより高いコールを受け入れる処理です。








目的または状態	必要な操作または状態の説明
発信コールのプライオリティレベル (Precedence) を選択する	対応するコールの Precedence 番号のリストについては、システム管理者にお問い合わせください。
プライオリティ (Precedence) コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。
特別な呼出音（通常より速い）または特別なコールウェイトニングのトーンが鳴る	プライオリティ (Precedence) コールを受けていることを意味します。コールのプライオリティレベルは、電話スクリーン上の MLPP アイコンによって示されます。
コールのプライオリティレベルを確認する	電話スクリーン上の MLPP アイコンを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> プライオリティの低い（プライオリティ）コール</li> <li><input type="checkbox"/> プライオリティのやや高い（即時）コール</li> <li><input type="checkbox"/> プライオリティの高い（フラッシュ）コール</li> <li><input type="checkbox"/> プライオリティの最も高い（フラッシュ オーバーライド）コール、つまりエグゼクティブ オーバーライド コール</li> </ul> より高いプライオリティのコールが、コールリストの先頭に表示されます。MLPP アイコンが表示されていない場合、コールのプライオリティレベルは通常（ルーチン）です。
プライオリティのより高いコールを受け入れる	コールに通常どおり応答します。必要に応じて、アクティブなコールを先に終了します。
コール中に連続したトーンが聞こえる	自分または通話相手が、現在のコールより優先されるべきコールを受信しています。すぐに切断し、プライオリティのより高いコールの呼出音が鳴るようにします。

## ヒント

- MLPP が有効なコールを発信または受信すると、標準のトーンとは異なる特別な呼出音とコールウェイティングのトーンが鳴ります。
- 無効な MLPP アクセス番号を入力すると、音声によるアナウンスでエラーが通知されます。

# ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンの使用方法

次の表では、デバイスの使用方法について説明しています。

目的	必要な操作または状態の説明
ハンドセットを使用する	オフフックにするにはハンドセットを取り上げます。オンフックにするにはハンドセットを置きます。
ヘッドセットを使用する	<p>ヘッドセットモードのオン/オフを切り替えるには、 を押します（自動応答を使用している場合は、例外について P.44 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください）。</p> <p>ヘッドセットの使用中は、 や  など、電話機のすべてのコントロールにアクセスできます。</p> <p>ヘッドセットの購入については、P.44 の「ヘッドセットの購入」を参照してください。</p>
スピーカフォンを使用する	<p>スピーカフォンモードのオン/オフを切り替えるには、 を押します。</p> <p>ハンドセットが受け台に置かれていて、 が点灯していないときに電話番号をダイヤル、またはコールに应答すると、通常はスピーカフォンモードが自動的に有効になります。</p>
コール中に（ハンドセットから）スピーカフォンまたはヘッドセットに切り替える	 または  を押し、ハンドセットを置きます。
コール中に（スピーカフォンまたはヘッドセットから）ハンドセットに切り替える	ハンドセットを取り上げます。ボタンを押す必要はありません。

## ヒント





- ヘッドセットポートの位置については、P.6 の「電話機の接続」を参照してください。
- ハンドセット、ヘッドセット、およびスピーカフォンを使用してコールの発信、应答、終了などの処理を行う方法については、P.20 の「基本的なコール処理」を参照してください。

## ヘッドセットの購入

電話機では、電話線が 4 本または 6 本のヘッドセットのジャックがサポートされています。ヘッドセットの購入については、P.8 の「ヘッドセットについて」および <http://vxicorp.com/cisco> の Web サイトを参照してください。



## ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答

大量の着信コールを受ける場合、または他人のコールを処理する場合は、自動応答を使用すると便利です。システム管理者は、スピーカフォンまたはヘッドセットのいずれかの使用時に自動応答するように設定します。次の表に詳細を示します。

目的または状態	必要な操作または状態の説明
ヘッドセットで自動応答を使用する	<p>コール中でない場合でも、ヘッドセット モードをアクティブ(つまり  が点灯した状態) にしておきます。ヘッドセット モードをアクティブにしておくには、 を押してコールを終了するのではなく、[ シュウリョウ ] を押して切断します。新しいコールを発信するときは [ ハッシン ] または [ ダイヤル ] を押します。</p> <p>電話機がヘッドセット モードで自動応答を使用するように設定されている場合、コールは  が点灯しているときにのみ自動的に応答されます。条件が満たされていない場合は、通常どおりコールの呼出音が鳴るので、手動で応答する必要があります。</p>
スピーカフォンで自動応答を使用する	<p>ハンドセットを受け台に置き、ヘッドセット モードを非アクティブ(つまり、 が消灯した状態) にしておきます。</p> <p>電話機がスピーカフォン モードで自動応答を使用するように設定されている場合、コールは上に示した条件が満たされているときにのみ、スピーカフォンを使用して自動的に応答されます。条件が満たされていない場合は、通常どおりコールの呼出音が鳴るので、手動で応答する必要があります。</p>



# 電話機の設定のカスタマイズ

次の表に示すように、設定を調整することによって、Cisco IP Phone を個人設定できます。次のヒントに留意してください。

- ほとんどの設定を電話機で行えますが、一部の設定についてはユーザ オプション Web ページからオンラインでアクセスする必要があります。詳細については、P.53 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。
- 製造時に電話機にプログラムされた元の設定値に戻すには、 > [デフォルト] を選択します（必要に応じて、[デフォルト] を表示するために [ツギへ] ソフトキーを押します）。音量レベル、および [コントラスト] メニューと [ヨビダシオンタイプ] メニューの値が変更されます。
-  が反応しない場合、システム管理者が電話機でこのボタンを無効に設定している可能性があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。


## 音量の調節

次の表では、電話機の音量レベルを調節および保存する方法について説明しています。

目的	必要な操作または状態の説明
コールの音量レベルを調節する	<p>コール中またはダイヤル トーンが聞こえているときに  を押します。</p> <p>以降のコールのためにこの音量設定を保存するには、[ホゾン] を押します。</p> <p>ハンドセット、スピーカフォン、およびヘッドセットの音量設定は、個別に調節する必要があります。</p>
呼出音の音量レベルを調節する	<p>ハンドセットが受け台に置かれていて、ヘッドセットとスピーカフォンのボタンがオフになっている状態で、 を押します。音量を上げたり下げたりするには、ボタンを押し続けます。設定した呼出音の音量が自動的に保存されます。</p>



## 呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ

着信コールまたは新しいボイス メッセージを電話機で示す方法を、回線ごとにカスタマイズできます。呼出音やその他のインジケータをカスタマイズすると、複数の回線をすばやく区別するのに役立ちます。たとえば、回線 1 の着信コールを鳥の鳴き声で示し、回線 2 の着信コールを太鼓の音で示すことができます。

目的	必要な操作または状態の説明
呼出音を変更する	 > [ヨビダシオンタイプ] を選択します。 電話回線またはデフォルトの呼出音の設定を選択します。ナビゲーション ボタンを使用して、呼出音のタイプをスクロールします。選択した呼出音を聞くには、[サイセイ] を押します。目的の呼出音を選択したら、[センタク] を押してから OK を押します。 選択した電話回線にデフォルトの呼出音の設定を適用するには、[デフォルト] を押します。
呼出音のパターン（点滅のみ、一度だけ鳴らす、ピーブ音のみなど）を変更する	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [電話の呼び出し音設定を変更] を選択します。
ハンドセットにあるボイス メッセージのランプの動作を変更する	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [メッセージ受信のランプポリシーを変更] を選択します。通常は、デフォルトのシステム ポリシーに従って、新しいボイス メッセージの受信時には常に電話機のランプが点灯します。

## 電話スクリーンのカスタマイズ

電話スクリーンのコントラストの調節、および電話スクリーンで使用する言語の変更を行うことができます。

目的	必要な操作または状態の説明
電話スクリーンのコントラストを変更する	 > [コントラスト] を選択します。[アップ] [ダウン] または  を押してから OK を押します。[キャンセル] を押すと、前回保存したときの設定に戻ります。
電話スクリーンの言語を変更する	ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メイン メニューから [この電話のロケールを変更] を選択します。詳細については、P.53 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。

## 短縮ダイヤル機能の設定

短縮ダイヤル機能を使用すると、ボタンを押す、またはインデックス コードを入力することにより、コールを発信できます。

短縮ダイヤルを電話機に設定するには、次のいずれかの方法を実行します。

- 短縮ダイヤルをボタンに設定する：短縮ダイヤル番号は、電話機で利用可能な任意のプログラマブル ボタンに割り当てることができます。ただし、まだ回線、機能、またはサービス ボタンとして設定されていないボタンに限ります。
- 短縮ダイヤルをインデックス コードに設定する：固定短縮ダイヤル機能を使用すると、電話番号を完全に入力しなくても、割り当て済みのインデックス番号（1～9）を入力することでダイヤルできます。

次の表に示すように、いずれのタイプの短縮ダイヤル機能もユーザ オプション Web ページで設定します。ユーザ オプション Web ページの詳細については、P.53 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。



目的	必要な操作または状態の説明
短縮ダイヤル番号を電話機のボタンに追加する	<p>ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから <b>[ 短縮ダイヤルの追加または更新 ]</b> を選択します。</p> <p><b>[ 電話の短縮ダイヤル設定 ]</b> で、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように、電話番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードをダイヤルします。</p> <p>入力したラベルは、電話スクリーンの短縮ダイヤル ボタンの横に表示されます。</p>
固定短縮ダイヤル機能で使用する短縮ダイヤル番号を追加する	<p>ユーザ オプション Web ページにログインし、デバイスを選択して、メインメニューから <b>[ 短縮ダイヤルの追加または更新 ]</b> を選択します。</p> <p><b>[ 電話機のボタンに割り当てられていない短縮ダイヤル設定 ]</b> で、利用可能な短縮ダイヤル ボタンごとに電話番号とラベルを入力します。自分の電話機からダイヤルする場合とまったく同じように、電話番号を入力します。たとえば、必要に応じて「9」などのアクセスコードや地域コードをダイヤルします。</p>
短縮ダイヤル番号を削除する	電話番号とラベルは、短縮ダイヤルに関するいずれかの Web ページから削除します。

## ヒント




- 短縮ダイヤル機能を使用してコールを開始する方法については、P.20 の「コールの発信」を参照してください。
- システム管理者は電話機に短縮ダイヤル ボタンを割り当てることができます。また、個人設定でできる短縮ダイヤル ボタンの数を制限することもできます。

# ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリの使用

この項では、ボイス メッセージ、履歴、およびディレクトリにアクセスするための機能ボタンの使用方法について説明します。



## ボイス メッセージへのアクセス


お使いの電話機システムが使用するボイス メッセージ サービスは、会社によって決定されます。ボイス メッセージ サービスの詳細については、付属のマニュアルを参照してください。ボイス メッセージ サービス機能の概要については、次の表を参照してください。

目的	必要な操作または状態の説明
ボイス メッセージ サービスの個人設定を行う	 を押し、音声の指示に従います。電話スクリーンにポップアップメッセージメニューが表示された場合は、該当するメニュー項目を選択します。
新しいボイスメッセージの着信を確認する	電話機で次のインジケータを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハンドセットの赤いランプの点灯（このインジケータは異なる場合があります。P.46の「呼出音およびメッセージ インジケータのカスタマイズ」を参照してください）。</li> <li>• 封筒アイコン  の点滅、および電話スクリーンのテキスト メッセージ。</li> </ul>
ボイス メッセージを聞く、またはボイス メッセージメニューにアクセスする	 を押します。このボタンを押すと、ボイス メッセージ サービスに自動ダイヤルされるか、または電話スクリーンにポップアップメニューが表示されます。この動作は、お使いのサービスによって異なります。
ボイス メッセージ システムにコールを送信する	<b>[ソクテンソウ]</b> を押します。コール（呼び出し中や保留中のもを含む）がボイス メッセージ システムに自動転送されます。発信者はボイス メッセージの内容を聞いて、メッセージを残すことができます。

## 履歴およびディレクトリの使用

電話機には、コールに関する不在履歴、発信履歴、および着信履歴が保持されています。ディレクトリ ボタンを使用すると、履歴を表示したり、履歴からダイヤルしたりできます。また、社内ディレクトリが利用可能な場合は、それにアクセスすることもできます。

目的	必要な操作または状態の説明
履歴を表示する	 > [フザイリレキ] [ハッシンリレキ] または [チャクシンリレキ] を選択します。それぞれのログに最大 32 件までのレコードが保存されます。
履歴からダイヤルする	<p>番号を選択し、オフフックにします。ログに表示された電話番号を編集する必要がある場合は、[ヘンシュウ] を押します。次に、&lt;&lt;または&gt;&gt; を押して、カーソルを移動、または数値を消去します。キーパッドを使用して数値を入力します。</p> <p>コールがアクティブなときに履歴からダイヤルする場合は、番号までスクロールして [ダイヤル] を押します。元のコールの処理に対応するソフトキーを、次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [ホリユウ]: 最初のコールを保留にし、2 番目のコールをダイヤルします。</li><li>• [シュウリョウ]: 最初のコールを切断し、2 番目のコールをダイヤルします。</li><li>• [テンソウ]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します ([テンソウ] を 2 回押します)。</li><li>• [カイギ]: すべての通話相手との間で会議コールを作成します ([カイギ] を 2 回押します)。</li></ul>
履歴を削除する	 を押してから [クリア] を押します。不在履歴、発信履歴、および着信履歴が削除されます。

目的	必要な操作または状態の説明
社内ディレクトリからダイヤルする	<p data-bbox="428 188 1266 326">  &gt; [シャナイディレクトリ] を選択します (名前は異なる場合があります)。キーボードで文字を入力して、リストを検索します。名前の一部でも検索できます。リストからダイヤルするには、番号をスクロールして選択し、オフフックにします。 </p> <p data-bbox="428 350 1266 448">           コールがアクティブなときに社内ディレクトリからダイヤルする場合は、リストをスクロールして選択し、[ダイヤル] を押します。元のコールの処理に対応するソフトキーを、次の中から選択します。 </p> <ul data-bbox="438 472 1266 747" style="list-style-type: none"> <li>• [ホリユウ]: 最初のコールを保留にし、2 番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [シュウリョウ]: 最初のコールを切断し、2 番目のコールをダイヤルします。</li> <li>• [テンソウ]: 最初の通話相手を 2 番目の通話相手に転送します ([テンソウ] を 2 回押します)。</li> <li>• [カイギ]: すべての通話相手との間で会議コールを作成します ([カイギ] を 2 回押します)。</li> </ul>



(注) ネットワークがシャットダウンまたはリセットされると、履歴の情報が消失する場合があります。

# ユーザ オプション Web ページへのアクセス

---

Cisco IP Phone はネットワーク デバイスであるため、社内の他のネットワーク デバイスと情報を共有することができます。この中には、コンピュータの Web ブラウザを使用してアクセスできる Web ベースのサービスも含まれます。

Cisco CallManager のユーザ オプション Web ページを使用すると、コンピュータで電話機サービスの設定、および設定や機能の制御を行うことができます。これらの機能やサービスを Web ページで設定しておくと、電話機でアクセスできるようになります。

たとえば、短縮ダイヤル ボタンを Web ページから設定したら、それ以降、それらのボタンには電話機でアクセスできます。

この項では、ユーザ オプション Web ページへのアクセス方法、および電話機サービスの登録方法について説明します。設定できる機能および登録できる電話機サービスの詳細については、『*Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ*』（[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c\\_ipphon/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm)）を参照してください。

# ユーザ オプション Web ページへのログイン

## 手順

---

**ステップ 1** ユーザ オプション の URL、ユーザ ID、およびデフォルトのパスワードをシステム管理者から入手します。

**ステップ 2** コンピュータで Web ブラウザを起動し、システム管理者から提供された URL を入力してログインします。

**ステップ 3** 総合メニューのデバイスを選択するドロップダウン リストから、デバイス タイプ（電話機のモデル）を選択します。

選択したデバイス タイプに対応したオプションが、コンテキスト メニューに表示されます。

---

## ユーザ オプション ページのナビゲートに関するヒント

- 該当するオプションをすべて表示するには、メニュー ページでデバイスを選択します。
- 変更内容を適用して保存するには、[ **更新** ] をクリックします。
- コンテキスト メニューに戻るには、[ **メニューに戻る** ] をクリックします。
- ユーザ オプション ページを終了するには、[ **ログオフ** ] をクリックします。




## 電話機サービスへの登録

電話機から登録電話機サービスにアクセスするには、まずコンピュータでユーザ オプション Web ページにアクセスし、電話機サービスに登録する必要があります。Web ページへのログインについては、P.53 の「ユーザ オプション Web ページへのログイン」を参照してください。

電話機サービスの内容は次のとおりです。

- Web ベースの情報（株式相場、映画情報、気象情報など）
- ネットワーク データ（社内カレンダー、検索可能なディレクトリなど）
- 電話機の機能（個人ファースト ダイヤル、個人アドレス帳など）

詳細については、次の表を参照してください。

目的	ログインしてデバイス タイプを選択した後の操作
サービスに登録する	メイン メニューから [ Cisco IP Phone サービスの設定 ] を選択します。[ 使用可能なサービス ] ドロップダウン リストからサービスを選択し、[ 続行 ] をクリックします。指示に従って情報（郵便番号や PIN など）を入力し、[ 登録 ] をクリックします。
登録を変更または解除する	メイン メニューから [ Cisco IP Phone サービスの設定 ] を選択します。[ 登録されているサービス ] パネルのサービスをクリックします。登録内容を変更して [ 更新 ] をクリック、または [ 登録解除 ] をクリックします。
サービスをプログラマブル ボタン  に追加する	サービスを登録した後、メイン メニューから [ サービス URL ボタンの追加または更新 ] を選択します。利用可能なボタンごとに、ドロップダウン リストからサービスを選択し、説明のテキストを入力します。変更が終わったら、[ 更新 ] をクリックします。サービスを追加できるプログラマブル ボタンの数は、システム管理者が決定します。また、電話機へのサービス ボタンの割り当ても、システム管理者が行う場合があります。
電話機からサービスにアクセスする	電話機の  を押します。サービスをプログラマブル ボタンに追加している場合は、サービスに対応した  （プログラマブル ボタン）を押します。
電話機サービスの利用方法を調べる	『 Web での Cisco IP Phone のカスタマイズ』 ( <a href="http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm">http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm</a> ) を参照してください。

# その他の設定オプションについて

システム管理者は必要に応じて、特別なサービスや機能のほかに、特別なボタンやソフトキーのテンプレートを使用するように電話機を設定できます。次の表は、設定オプションの概要について説明しています。コールの需要や作業環境に応じたオプションの設定について、電話機のシステム管理者と相談するときに役立ちます。



(注) この表に記載されているユーザガイドやその他のマニュアルには、[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c\\_ipphon/index.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_ipphon/index.htm) からアクセスできます。




目的または状態	必要な操作または状態の説明	参照先または問い合わせ先
回線が処理できるコール数を増やす必要がある	回線がサポートするコール数を増やすように、システム管理者に設定を依頼します。	システム管理者または電話機のサポートチームにお問い合わせください。
電話回線が1本では足りない	追加の電話番号の設定をシステム管理者に依頼します。	システム管理者または電話機のサポートチームにお問い合わせください。
短縮ダイヤルボタンが足りない	まず、現在利用可能な短縮ダイヤルボタンをすべて使用しているかどうかを確認します。  追加の短縮ダイヤルボタンが必要な場合は、固定短縮ダイヤル機能の使用またはファーストダイヤルサービスへの登録を検討してください。  Cisco IP Phone 7914 拡張モジュールを電話機に接続するオプションについては、システム管理者にお問い合わせください。	次の説明を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• P.47の「短縮ダイヤル機能の設定」</li> <li>• P.54の「電話機サービスへの登録」</li> <li>• <i>Cisco IP Phone 7914 Expansion Module Phone Guide</i></li> </ul>




目的または状態	必要な操作または状態の説明	参照先または問い合わせ先
秘書と仕事をしている(または自分が秘書である)	<p>次の機能の導入を検討してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco IP Manager Assistant サービス</li> <li>• 共有回線</li> </ul>	<p>次の説明を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>Cisco IP Manager Assistant ユーザガイド</i></li> <li>• P.36 の「共有回線の使用」</li> </ul>
1つの内線を複数の電話機で使用する	<p>共有回線が必要です。共有回線を使用することで、たとえば1つの内線番号をデスクの電話機と実験室の電話機で使用することができます。</p>	<p>P.36 の「共有回線の使用」を参照してください。</p>
電話機やオフィススペースを同僚と共有している	<p>次の機能の導入を検討してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コールパーク: 転送機能を使用せずにコールを保存、および取得できます。</li> <li>• コールピックアップ: 自分の電話機を使用して、別の電話機で鳴っているコールに応答できます。</li> <li>• 共有回線: 進行中のコールを表示し、そのコールに参加できます。</li> <li>• Cisco エクステンション モビリティ: 自分の電話番号とユーザ プロファイルを共有の電話機に適用できます。</li> </ul>	<p>これらの機能については、システム管理者にお問い合わせください。また、次の説明を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• P.34 の「応用的なコール処理」</li> <li>• P.36 の「共有回線の使用」</li> <li>• 『Web でのCisco IP Phone のカスタマイズ』の「エクステンション モビリティの使用方法」の項</li> </ul>
頻繁にコールに応答する、または他の人の代理でコールを処理する	<p>電話機の自動応答機能を設定するように、システム管理者に依頼します。</p>	<p>P.44 の「ヘッドセットまたはスピーカフォン使用時の自動応答」を参照してください。</p>
ビデオ コールを発信する必要がある	<p>Cisco VT Advantage の使用を検討します。この機能を使用すると、Cisco IP Phone、コンピュータ、および外部のビデオ カメラを使用してビデオ コールを発信できます。</p>	<p>詳細についてはシステム管理者にお問い合わせください。また、『Cisco VT Advantage ユーザガイド』および『Cisco VT Advantage クイックスタートガイド』を参照してください。</p>
自分の電話番号と設定を共有の Cisco IP Phone に一時的に適用する	<p>Cisco エクステンション モビリティ サービスについてシステム管理者に問い合わせます。</p>	<p>『Web でのCisco IP Phone のカスタマイズ』の「エクステンション モビリティの使用方法」の項を参照してください。</p>

# 電話機のトラブルシューティング

この項では、Cisco IP Phone および電話機のコールに関する情報へのアクセス方法を示します。これらの情報は、システム管理者または技術者が、電話機の問題を診断する際に役立ちます。

目的	必要な操作または状態の説明
ネットワーク構成データにアクセスする	 > [ネットワークノセッテイ] を選択し、表示するネットワーク構成項目を選択します。
ステータスデータにアクセスする	 > [ステータス] を選択し、表示するステータス項目を選択します。
電話機のモデル情報にアクセスする	 > [モデルジョウホウ] を選択します。



(注)  が反応しない場合、システム管理者が電話機でこのボタンを無効に設定している可能性があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

## Quality Reporting ツールの使用方法

パフォーマンスに関する問題のトラブルシューティングに役立てるために、システム管理者により一時的に、Cisco IP Phone に Quality Reporting ツールが設定されることがあります。[ ヒンシツ ] ソフトキーを使用すると、問題のある電話機のコールに関する情報をシステム管理者に送信できます。

システム管理者が電話機に Quality Reporting ツールをどのように設定したかによって、[ ヒンシツ ] ソフトキーは 2 通りに使用できます。

目的	必要な操作または状態の説明
現在のコールのオーディオに関する問題をすぐにレポートする	コール中に [ ヒンシツ ] を押します ( 必要に応じて [ ツギへ ] ソフトキーを先に押します )  電話機システムにより、通話中のコールのオーディオ データが収集され記録されます。記録された情報は、システム管理者に送られます。
電話機のコールに関する問題をレポートする	[ ヒンシツ ] を押します ( 必要に応じて [ ツギへ ] ソフトキーを先に押します )。問題のカテゴリのリストから、レポートする問題を選択します。問題のカテゴリによっては、より詳しい情報を提供する原因コードを選択できます。  電話機により、この情報がシステム管理者に送信されます。

# シスコ製品（ハードウェア）に関する 1 年間の限定保証規定

保証期間内にお客様が受けられるハードウェアの保証およびサービスに関して適用される特別な条件があります。シスコのソフトウェアに適用される保証を含む正式な保証書は、Cisco Documentation CD および Cisco.com から参照できます。次の手順を実行して CD から、あるいは Cisco.com から *Cisco Information Packet*、および保証書にアクセスし、これらをダウンロードしてください。

1. ブラウザを起動し、次の URL に進みます。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es\\_inpk/cetrans.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es_inpk/cetrans.htm)

Warranties and License Agreements ページが表示されます。

2. *Cisco Information Packet* を表示するには、次の手順を実行します。

- a. **Information Packet Number** フィールドをクリックし、製品番号 78-5235-02F0 が選択されていることを確認します。
- b. 文書を表示する言語を選択します。
- c. **Go** をクリックします。
- d. Information Packet の Cisco Limited Warranty and Software License ページが表示されます。
- e. このページから文書をオンラインで見るとも、**PDF** アイコンをクリックして、文書を PDF (Adobe Portable Document Format) 形式でダウンロードし、印刷することもできます。



(注)

PDF ファイルを表示し、印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。これは、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.com> からダウンロードできます。

3. お手持ちの製品について、翻訳またはローカライズされた保証情報を表示するには、次の手順を実行します。

- a. Warranty Document Number フィールドに、次の製品番号を入力します。

78-10747-01C0

- b. 文書を表示する言語を選択します。
- c. **Go** をクリックします。

Cisco warranty ページが表示されます。

- d. このページから文書をオンラインで見るとも、**PDF** アイコンをクリックして、文書を PDF (Adobe Portable Document Format) 形式でダウンロードし、印刷することもできます。

また、Cisco Service and Support の Web サイトにアクセスして、サポートを受けることもできます。

[http://www.cisco.com/public/Support\\_root.shtml](http://www.cisco.com/public/Support_root.shtml)

## ハードウェア保証期間

1 年間

### ハードウェアに関する交換、修理、払い戻しの手順

シスコ、またはその代理店では、Return Materials Authorization (RMA) 要求を受領してから、10 営業日以内に交換部品を出荷するように商業上合理的な努力を致します。お届け先により、実際の配達所要日数は異なります。

シスコは購入代金を払い戻すことにより一切の保証責任とさせて頂く権利を留保します。

### Return Materials Authorization (RMA) 番号の入手

製品を購入されたシスコの代理店にお問い合わせください。製品を直接シスコから購入された場合は、シスコの営業担当者にお問い合わせください。

次の項目を記入して、参照用に保管してください。

製品の購入先	
購入先担当者の電話番号	
製品モデル番号	
製品シリアル番号	
メンテナンス契約番号	



# Index

---

## C

C 割り込み、「割り込み」を参照

Cisco IP Phone

接続 6

登録 7

~の Web ベースのサービス 52

~のオンライン ヘルプ 19

~の機能の設定 14, 55

~の図 10

~の説明 9

~の高さの調節 7

~のマニュアル 5

ハンドセット受け台の確実な取り付け 7

## M

Malicious Call Identification (MCID) 使用 39

Meet-Me 会議 30, 33

MLPP、使用 41

## Q

QRT、使用方法 58

## T

TAPS、使用 7

Tool for Auto-Registered Phones Support 7

## W

WebDialer、使用 22

## あ

### アイコン

コールの状態を示す 15

ボタン上の 19

新しいコール、発信のオプション 20

暗号化されたコール、~のアイコン 40

安全、警告 2

安全なコール、~の説明 40

## い

インストール、Cisco IP Phone 6

## お

応答、コールへの、~のオプション 25

オーディオに関する問題、レポート 58

### オフフック

ダイヤル 20

~の説明 14

オンフック	
ダイヤル	20
~の説明	14
オンライン ヘルプ、使用	19
音量	
調節	45
デフォルトを使用	45
音量ボタン、説明	12

## か

会議コール	
Meet-Me	30, 33
~のタイプ	30
標準	30, 31

## 回線

~の説明	14
表示	13
回線ボタン、識別	11

## き

キーパッド	
~でのテキストの入力	18
~の説明	12
機能、~のアベイラビリティ	14
機能ボタン	
サービス	12
設定	12
ディレクトリ	11
ヘルプ	11
メッセージ	12
機能メニュー、使用方法	18

## 共有回線

~とリモートで使用中のアイコン	36
~の最大コール	37
~の説明	36
プライバシーの使用	38
割り込みの使用	37
切り替え、コールの	16

## く

グループコールピックアップ、使用	35
------------------	----

## け

警告、安全	2
-------	---

## こ

コール	
安全な	40
応答	25
回線ごとの最大数	15, 37
回線との違い	14
終了	26
選択	16
転送	28, 29
~のアイコン	15
~の会議機能	30
~の複数の通話相手	30
~の問題のレポート	58
パーク	34
発信	20
表示	13, 16
複数の処理	16

- 保存と取得 34
  - 保留と復帰 27
  - ミュート 27
  - 優先順位付け 41
  - 呼び出し中のリダイレクト 25, 35
  - コール アクティビティ領域、表示 13
  - コール パーク、使用 34
  - コール ピックアップ、使用 35
  - コール処理、応用的な 34
  - コール処理、基本的な 20
  - コール ウェイティング、使用 25
  - コール転送、使用 29
  - コールバック、使用 22
  - 個人アドレス帳 (PAB)
    - ～からダイヤル 23
    - ～への登録 54
- さ
- サービス、～への登録 54
  - サービス ボタン、説明 12
- し
- 自動応答、使用 44
  - 社内ディレクトリ
    - 電話機で使用 22
    - ～の Web ページからダイヤル 22
  - 終了、コールの、～のオプション 26
- す
- ステータス データ、～へのアクセス 57
  - ステータス行、表示 13
- スピーカフォン
    - 音量 45
    - ～で応答 25
    - ボタン、識別 12
    - モード、使用 43
    - ～を使用してダイヤル 20
    - ～を使用中に切断 26
- せ
- 切断、～のオプション 26
  - 設定
    - カスタマイズ 45
    - デフォルトを使用 45
  - 設定ボタン、説明 12
  - 選択、コールの 16
- そ
- ソフトキー ボタン
    - ～の説明 12
    - ～のラベル 13
- た
- ダイヤル、～のオプション 20
  - 短縮ダイヤル
    - 使用方法 21
    - ボタン、識別 11
    - ボタン、設定 47
    - ラベル 13



ち		に	
着信履歴、～のレコード	50	認証されたコール、～のアイコン	40
て		ね	
ディレクトリ		ネットワーク構成データ、～へのアクセス	57
電話機で使用	22, 50	は	
～の Web ページからダイヤル	22	発信、コールの、～のオプション	20
ディレクトリ ボタン、説明	11	発信履歴、～のレコード	50
テキスト、電話機への入力	18	ハンドセット	
転送、コールの、～のオプション	29	受け台への確実な取り付け	7
転送、～のオプション	28	音量	45
電話回線		使用方法	43
～の説明	14	ライトストリップ	11
～のボタン	11	ふ	
表示	13	ファーストダイヤルサービス	
電話スクリーン		～への登録	54
クリーニング	5	～を使用してダイヤル	23
項目の選択	17	複数のコール、処理	16
～の機能	13	不在履歴、～のレコード	50
～の言語の変更	47	不審なコール、トレース	39
～のコントラストの調節	47	復帰、使用	27
と		フットスタンド	
トラブルシューティング、～用のデータ	57	調節	7
な		ボタン、識別	11
内線番号、表示	13	プライバシー	
ナビゲーション ボタン、説明	12	使用方法	38
		～と共有回線	36

- プログラマブル ボタン
  - ～の説明 11
  - ～のラベル 13
  
- へ
- ヘッドセット
  - 音量 45
  - ～で応答 25
  - ボタン、識別 12
  - モード、使用 43
  - ～を使用してダイヤル 22
  - ～を使用中に切断 26
- ヘッドセットのパフォーマンス、全般 8
- ヘルプ、使用 19
- ヘルプ ボタン、説明 11
  
- ほ
- ボイス メッセージ サービス、使用 49
- ボイス メッセージのインジケータ、識別 49
- ボタン、識別 19
- 保留
  - 使用方法 27
  - ～とコールの切り替え 16
  - ～と転送 28
  
- ま
- マニュアル、参照 5
  
- み
- ミュート、使用 27
  
- ミュート ボタン、説明 12
  
- め
- メッセージ
  - ～のインジケータ 46, 49
  - ～を聞く 49
- メッセージ ボタン、説明 12
- メニュー、使用方法 18
  
- ゆ
- ユーザ オプション Web ページ
  - ～と電話機サービス 54
  - ～へのアクセス 52
- 優先順位付け、コールの 41
  
- よ
- 呼出音
  - 音量 45
  - カスタマイズ 46
  - ～のインジケータ 11
  
- り
- リダイヤル、使用 20
- リモートで使用中のアイコン、共有回線の履歴 36
  - ～からダイヤル 21
  - 削除 50
  - 表示とダイヤル 50

わ

割り込み

使用方法 37

~と共有回線 36

~とプライバシー 38

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

CCSP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work、Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、SwitchProbe、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、TransPath、および VCO は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0501R)

Copyright © 2005, Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

お問い合わせは、購入された各代理店へご連絡ください。



シスコシステムズ株式会社

URL:<http://www.cisco.com/jp/>

問合せ URL:<http://www.cisco.com/jp/service/contactcenter/>

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-14-27 国際新赤坂ビル東館

TEL.03-5549-6500 FAX.03-5549-6501